

## 第2回新見市観光事業審議会会議録要旨

令和3年2月17日（水）10時～  
市役所南庁舎3階大会議室

### 1 開会

（司会 事務局長）略

（会長あいさつ）

観光は、時代の変化に対応し存続するということが大事だと思っています。

本日は、観光事業の課題の把握と今後の展開ということで、ご審議をお願いします。

### 2 議事

#### （1）本日の審議の進め方

（会長）

まず、（1）の本日の審議の進め方について、事務局から説明をお願いします。

（事務局長）

本審議会は、市長から新型コロナウイルス感染症の収束を見据えた新見市観光事業についての意見を求められております。

本市の観光の状況は、主要観光10施設の入込客数が、平成25年度に約34万人であったところですが令和元年度には約27万人と約7万人減少しているところですが。本年度の入込客数は、新見千屋温泉が営業していないことから新見千屋温泉が前年同数の8万人と仮定しますと約24万人と予想しており、昨年よりさらに3万人減少する見込みです。スキー場は雪に恵まれています。新型コロナウイルスの関係で予想以上に苦戦しており思った以上に伸びてこない状況です。

さて、第1回目の審議会において、本市観光事業の現状と主要な観光施設ごとの課題についてご紹介させていただきました。

本日は、入込客数の増加に向けて、主要な観光施設ごとに今後の展開案、そして、市全体としての今後の取組案について、委員の皆さまにご紹介させていただき、それらを含みまして、委員の皆さまから、新型コロナウイルス感染症の収束を見据えて、本市観光事業が将来にわたって発展するため、それぞれの立場から、ご意見をいただきたいと考えているところでありますので、よろしくをお願いします。

（会長）

ただいま事務局から説明がありました内容について、皆さまからご意見ご質問などがありましたら、発言をお願いします。

ご発言がないようですので、審議の進め方について、ご了承いただける方は、挙手をお願いします。

～挙手多数～ ありがとうございます。

## (2) 市観光事業の今後の展開

(会長)

次に、(2)の市観光事業の今後の展開について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

お手元の資料1から説明します。

略(資料1の列の項目および表の見方を説明、また、各エリアの近隣にある市外の観光施設の入込客数を紹介)

(会長)

ただいま事務局から説明がありました内容について、皆さまからご意見ご質問などがありましたら、発言をお願いします。

(委員)

施設ごとに入込客数1人あたりの費用が明示されているとより分かりやすかったが、資料作成ありがとうございました。

費用対効果の概算の数字があれば、よりわかりやすかったかなと思います。資料作成ありがとうございました。

(委員)

年間収支の修繕等の欄は現金支出だけか減価償却のような非現金支出を含んでいるのか教えてください。

(事務局)

減価償却は含んでいません。

(会長)

次に、資料2の説明をお願いします。

(事務局)

市では、冒頭に掲載している「第3次新見市総合計画」および「新見市観光アクションプラン」に基づいてさまざまな観光施策に取り組んでいます。

資料には、6エリアごとに今後の展開案と最後に市全域としての展開案を掲載しています。

まず、北エリアについて説明します。略(資料を読み上げて説明)

(会長)

北エリアの委員からご意見をお願いします。

(委員)

千屋野の里を設立する際に若い人からお年寄りまで80人ぐらい集まってどういう千屋にしたいか意見を聞いたときに、子どもたちが外で自由に遊べるような公園

をつくりたいという意見がありました。今小さい子どもが遊べる場所は正田の公園だけなんです。そういったときに温泉とかスキー場をからめて、スキー場の夏場に芝を整備してそこでソリができるとか、その上に市有林があるのでそこでフィールドアスレチックをするとか、間伐して散策できる遊歩道を作るとか、幻の滝に行く道を整備すとか、架線を張って高いところから滑車を使って下りるとか、山を使って、温泉を使って、スキー場を使って、家族連れや子どもたちが遊べるようなものができたらいいのかなという思いがあります。温泉はグランドゴルフをされるお年寄りの利用客が多いので、そこに家族連れでやってきて、外で子どもたちが遊んでいるときにお年寄りは温泉に入るとかの利用が進めばもっと利用客が増えるのではないかと思います。

(事務局)

いただいたご意見を参考にして施策に生かしていきたいと思います。グリーンシーズンにつきましては、家族連れに活用されるようなものを考えていきたいと思います。

(委員)

別所アウトドアスポーツセンターは非常に良い施設であると思っています。少し入込客数が少ないのが実状ということで、何か付加価値を上げて利用者を伸ばす計画が必要だと思います。釣り堀でなく、別所の川は溪流釣りに適しているので、例えばアマゴを放流して釣りをやってみるとか。かつて干子や高瀬川ダムで放流をしましたが進展しなかったのは、谷そのものの形状とかで釣りにくいかもがあります。別所川は釣りに親しみやすい川なので、検討してはいかがでしょうか。

(事務局長)

貴重なご意見をありがとうございます。今ご意見いただいたように、ここはポテンシャルをもっていますが、活用しきれていない部分があると思っています。広告宣伝などの課題も持っています。いただいたご意見などを参考にしっかりPRすることも考えていきたいと思います。

(委員)

北エリアは、滝山公園も結構人が行くところなのでそことも連携してはどうでしょうか。

(委員)

別所アウトドアスポーツセンターは、近くに鳴滝とかきれいな滝もあるので連携していけばいいと思います。また、こういったところはバーベキューセットとか何も準備せずに車で行けるところが多いと思うので、手ぶらで来てもバーベキューができるというのがいいと思います。

(事務局)

先ほど滝山公園のお話がありました。まず近いところに協力を仰いで市の観光施

設のパンフレットを置いてもらえるようなことを考えていきたいと思っており、滝山公園にも問い合わせたいと思います。

別所につきましては、手ぶらでバーベキューはできます。ほぼリピーターになっていて、別所の情報を皆さん知らない状況で、広告宣伝が十分できていないので力を入れていきたいと思います。

(委員)

別所はPRが少ないというのがありますし、別所は福本地区になると思いますが、地区民の協力をいただいてイベントを開催して盛り上げていただくと利用も上がっていくのではないのでしょうか。地元との協力をもう少し進めたらいいのではないかと思います。また、千屋は山深いところであって山菜の宝庫だと思います。コシアブラやタラの芽などを採って料理を親子で楽しむとか、地域の山林を生かして観光と結びつけていかれたらよりよくなるのではないかと思います。

(事務局)

いただいたご意見のとおりだと思います。新しい新見千屋温泉の指定管理者も体験メニューを研究してくださっているので、いただいたご意見を伝えていきたいと思います。

(会長)

次に北西エリアの説明をお願いします。

(事務局)

北西エリアについて説明します。略（資料を読み上げて説明）

(会長)

北西エリアの委員からご意見をお願いします。

(委員)

神郷温泉グラウンドの芝生化ですが、昨年春には夏の合宿で予約が満杯でしたが、コロナの影響で全部キャンセルになったそうです。コロナが収まると高校・大学の合宿は満杯になると思います。日南町、日野町は比較的近いので神郷温泉と新見千屋温泉が日南町や日野町の観光客を受け入れる体制を作ることが重要だと思います。日南町の道の駅に阪急トラピックスのホテルを鑑賞するバスが入って来ます。道の駅に観光バスが横付けし、山までシャトルバスで観光客を輸送します。夜の観光ですがそのままバスに乗って帰られます。そういったお客さんが神郷温泉や新見千屋温泉を使ってもらえないかと思っています。お客さんが多ければ市内のビジネスホテルや旅館にも入ってきてくれると思います。日南町や日野町との連携を密にとってそういうことができないかと思っています。

(委員)

かつて日南町と交流があった時の話ですが、そこには宿泊施設がないということ

なんです。そこに温泉施設からアクションを起こしていないというのは残念だと思います。神郷温泉でも新見千屋温泉でもそういう形でそこと連携するということになれば、日野町には金持神社、日南町には福福（福成、福栄、樂樂福、大石見）神社があってこの神社を巡るツアー（フクフクめぐり）に取り組んでいることもあるので、その辺から誘客が取れるということになれば誘客数がどんどん増えてくるのではないかと思います。能動的に動くということがすごく重要だと思いますので、待っている人に営業に回って、こういうことがありますよということの周知を図るのが必要だと思います。指定管理者に対してもその辺をお知らせしたいと思います。

（事務局）

市外の近くの自治体の観光施設と連携して行かなければならないということをおおまかに考えていて、前回の審議会で、もう少し市外の近隣観光施設の状況を調べるようにご意見をいただいて、そちらの観光課であったり、観光協会に問い合わせをさせていただきました。その際、新見市の取組として連携を考えていることを伝えたところ、ぜひこちらにも連携してやっていきたいと思っているというご意見をいただき、いい機会になったと思っています。

（事務局長）

近隣の観光施設について、事務局が把握しているだけでは拾い漏れている施設もあるかもしれませんし、そういうところを捉えて連携できたらと思います。

（会長）

次に南西エリアの説明をお願いします。

（事務局）

南西エリアについて説明します。略（資料を読み上げて説明）

（会長）

南西エリアの委員からご意見ををお願いします。

（委員）

哲西は比較的東城に近いのですが、鯉が窪湿原は地元の方が整備をされてよくなっています。道の駅で言えば、さんわ182ステーションは比較的客人が入っているようです。理由は分かりませんが、去年ぐらいに産直市場もリニューアルされて広くなり、地元の野菜とかもたくさん置いていますし、30kgのコメも何袋も置いていて、道の駅鯉が窪でもそういうことができ、売ればどうなのかなと思ったりします。バスとかタクシーのお客様の乗り降りを考え、駐車場の整備とかができたところを目指して行ったりするので、お客様を案内する場合に駐車場が整備されていたら比較的楽かなと思っています。

(委員)

干子のことですが、前回の私の発言から誤解のないようにお伝えしますが、干子の現状は老朽化していますが、ここで再度地域観光資源の掘り起こしとかメニューの開発の中で役立てることができるのであれば、投資をしてリニューアルするとかまでを考えていかないと、資料1の赤字のところは指定管理者が努力してもだめだから廃止検討するのではなくて、再度本当に活用できるのかできないのかどういう取組ができるのかというのを考えた上で、それでも活用できないのであったら整理していくことも必要だと思いますし、現状ですぐに判断してほしいというつもりで発言したのではないので、誤解のないようにお願いします。しっかり地域でどのように活用できるか地域がどのように協力できるかというようなことを確認したうえで対応していくべきだと思います。

(事務局長)

もちろん我々もすぐには考えていません。今の施設がどのように活用できてお客さんに来ていただけるのかということも検討してまいりたいと思っています。また、地域の皆さんのご意見とかご協力とかがなくては難しいというところもあると思いますので、そのあたりも検証しながら進めてまいりたいと思っています。

(委員)

資料には入っていませんが、公共残土捨場が萬歳にあります。約20町歩、平面部が6から7ヘクタールあると思います。元々は花の公園をすることだったんです。鳥取には花回廊があり、お客さんが入っているようです。跡地の利用を観光面に使うか農業面に使うか工場立地に使うかは、残土捨場をするときの話が花の公園ということになっていたもので、他には使えないと思うのですが、その辺も検討してもらったらと思います。吹屋のふるさと村はこのデータでは8万4千人ですが、小学校もほとんど改修ができて、コロナが収まったら相当のお客さんが来られるのではないかと思います。もう一つ、吹屋から大型の林道が開設されて出来上がっています。大型バスはどんどん入れませんがマイクロバスなら十分走れる立派な道になっています。北をみれば大山が見えるような高いところを通って、法曾の済渡寺の交差点を降りて、もともと林業だけでなく観光にも使うと聞いていたので、井倉洞、満奇洞とつなぐ広域の観光ルートの形成を図ってほしいと思います。

(事務局長)

萬歳の残土捨場につきましては、我々がすぐにそこを開発するということにはならないと思いますが、市や関係者の皆さんがしっかり協議をすることになると思います。吹屋もすごくお客さんが来られている現状もあるので、高梁市とのコラボもしっかり検討していきたいと思っています。林道、アクセス道につきましてはもうどこで連携できるかということをしっかり検討していきたいと思っています。

(委員)

久保井野キャンプ場の利用が非常に少ないです。何が欠けているのかというところ

ろがあると思うので、大佐や千屋の方々から、何が足りないのか教えていただければと思います。

(委員)

鯉が窪湿原ですが、入込客数が6千人しかいないのはちょっとがっかりしています。ガイドとかを充実して、人を増やすようにしていけたらと強く思っています。また、親子孫水車は、本当にキッチン神代の食事はおいしいですし、コロナが収束したらお客さんは来ると思うので活用していただければと思っています。あと、新見駅の地下道で、新見を知っていただくという取組をやっており、今は駅前のたまたまき像を知っていますかという質問形式にしてというような取組を始めていまして、そういうのも活用していきながら、小さいことですが少しずつ新見を発信できたらと思っています。

(事務局)

今年の7月から9月のプレDCに向けて岡山県から提案いただき、周遊プランについて検討しており、新見駅から鯉が窪湿原に行くというプランも観光協会で作っているところです。採用される企画できたらと思っています。

(会長)

次に中央エリアの説明をお願いします。

(事務局)

中央エリアについて説明します。略(資料を読み上げて説明)

(会長)

中央エリアの委員からご意見ををお願いします。

(委員)

資料の御殿町の誘客数が4千人というのは私の方からは出していませんがどこからの数字ですか。

(事務局)

御殿町は誘客数の集計ができていないということで、本年度大西さんへ集計を依頼したところで、本来の数とは違いますが、把握できている太池邸のみの数字を掲載しています。実際、御殿町センターは観光客でない人の利用もありますが、1万人以上の方が利用されています。観光客以外の人を含めると御殿町周辺で、1万5千人程度いらっしゃるということになります。

(委員)

大きなイベントとしては、3月の雛まつりが5千から6千人、10月15日の土下座祭りが3千人から4千人なので、1万人ぐらいが来られている。ガイドの会はバスを中心に年間に2,000~3,000人を案内していますし、個別にも結構

来られています。こういう状態の中で私たちの地域として考えないといけないのが2年から3年先ぐらいまでのコロナ禍での対応をどうするかということです。その後どうなるかということも考えないといけない。それから、外から来た人はお金を使うところがない。十分お金を使っただかくプログラムを作っていきたい。それと、外から来た人はやはり千屋牛なんです。千屋牛は今のところ正田や伯備さんなどにもありますが、どこでステーキが食べれるのということを聞かれてなかなか答えられません。そこで、意地になって自分で鉄板を持ってきてステーキハウスを造って、倉敷と組んで町家を使うときだけオープンしています。7席を2回で14席を原価でしている状況ですが、電話で受付けて10分間で完売します。日銀の支店長さんを断ったがそういう人も千屋牛に関心を持っています。千屋牛がどこで買えて、どこで食べられるかもしっかりPRしていけたらと思います。御殿町の課題は駐車場です。これから大型バスを使った観光というものも変わってくると思いますが、地域に大型バスが入りません。対応できる範囲で対応しているという状況です。最近、太池邸にイタリアンの店（アルカ）ができました。新見にはやな木さんがあって市民の人でも予約が取れない状況です。おそらくアルカもそうなるだろうとみています。そういう店を御殿町センターも含めて創って行って、千屋牛のPRも含めて、ガイドもあって、そこら辺で楽しめるところを創って行けたらと思っています。太池邸が土日は開いていますが常時開いておらず連絡も取れないのでガイドがなかなか連携できていません。太池邸と連携する体制も課題です。外から見れば魅力的らしいのですが、城山公園も活用できていません。駐車場を含めて、気軽に立ち寄れるというのが課題だと思います。

（事務局）

やはり、他所でできない体験というのはとても大事で、御殿町の松葉に行くとしても面白い話が聴けて、ツアーで行った人は本当に喜ばれます。なので、そういう技術を継承して行ったり、継続してこういう活動をしていただくのが大事だと思うので、今、いろいろとお話をさせていただいてやっているの、密に連携して行きたいと思います。

（事務局長）

今いろいろなご意見をいただきました。御殿町のロケーションですとか、歴史でありますとか、そういった中で特産品である千屋牛でありますとか、キャビアでありますとか、ワインでありますとか、そういうものが連携しながらやっていると、他所から来られる人がお金を使える所ができて、お客さんが来ていただけるようになるのではないかと思いますので、駐車場も含めて体制の整備ということももう一度検討しながら、本当にどういう風にお客さんが来ていただけるのかという所も考え直す必要があるんじゃないかと考えております。

（会長）

委員からご意見をお願いします。

(委員)

駐車場のお話は前回も出たと思います。ただ一方で中央エリアは駅が中心にあるので、やはり駅を使いながら、かつ、駅を使って外からくる人たちに対するアクションというところに少し焦点をあててやり取りをされれば、すごく循環化されるのではないかと思います。具体的には今、話に挙げたキャビアであるとか千屋牛なんかは、一つの単価が高いので、そういうものを目玉にしながら、遠くまで行かなくても、ある場所に行けばそういうものが買えるというような、宣伝効果の高いものを中心に置き、やり取りされるとまわるかなと思います。注意点に関してはそのようなことを感じました。

(委員)

一つ、大学の中で話を進めていっていただけるということで嬉しく思っているのが、年間授業で御殿町を取り上げていただくということで、我々にとって非常に楽しみにしている事業です。年間通してその中で何か新しいものが見つかるかなと大変期待しておりますので、ご指導のほどよろしくお願いします。

(委員)

補足だけ。大学が授業の一環として、今までは御殿町の大西さん含め、いろいろな方に協力していただきながら、数日間、外から来る学生が多いですので、新見を知ってもらおうという事で、御殿町の歴史を含め、色んな説明をしていただいていた。来年度から少し形を変えて、年間通じてもう少し地域を知るという授業展開をして行こうという話になっています。具体的にはどの様なやり取りをするのかというのは今後詰めることになると思うのですが、今までの話の中でやはり広告・宣伝の在り方というものに少し工夫が必要かと思います。これに関しては、後半最後のまとめのところでご意見させていただければと思ったのですが、この機を借りて発言させていただけるとすれば、やはり利用者の世代によって情報収集の仕方って違うと思うんです。特に、本校は大学生ということで若者のやり取りが多いので、そういう中での情報発信の方法として、うまくインスタを使うとかそういう能力が長けています。なので、世代をうまく使いながら情報を発信していくというので、御殿町と今後やり取りがあると思いますのでそこら辺も含め、駅の情報も含め、発信がしていければなと考えているところです。

(委員)

春、3月27日から銀河がまた山陰から大阪方面に行くということで、今（新見駅）は運転停車のみでお客さんが降りられない状況ですけど、高梁市は市長の要望で30分程度停めるということで、やはり、新見市として新見駅に嘆願をして停める。そこで、千屋牛とかキャビアとかそういうものを観光地も含め乗っているお客さんは少量なんですけど、そこにおもてなしをして、そこから広めていってもらうような取組を、可能かどうかわからないですけど、やはり、市とかそういう所の首長がやはり嘆願して、成功している事柄ですので、ぜひ、やってもらいたいと思います。後は、観光案内所で特産物等々発信していただきますけど、交流センターの方は何かさびしい部分がございますので、そこを活用して駅前の賑わいや特産物の

発信等々を一緒に絡めてやってもらいたいという希望があります。また、駅前にもシンボリックなものもあればいいなという思いも持っていて、井倉洞のD51ももう少し人目につく所に持ってきて、そういうシンボリックな事柄ができたらいいなと思っています。それらも含め、どこかにそういう構想を入れていただけたらいいなと思っています。

(事務局)

今新見駅周辺のまちづくりワーキンググループでいろいろと研究してくださっているのですが、そちらの方の意見を反映しながら観光部門として対応できるようなことがあれば、いろいろ研究していきたいと思っています。

(会長)

次に北東エリアの説明をお願いします。

(事務局)

北東エリアについて説明します。略(資料を読み上げて説明)

(会長)

北東エリアの委員からご意見をお願いします。

(委員)

大佐山オートキャンプ場を管理させてもらって10年位になります。我々もキャンプ場に携わったことがそれまでになかったものですから、管理するにあたってどうしようか考えていました。それまではキャンプだけというよりは近くに何か観光資源があればいいのになと考えていたのですが、やはり岡山県の観光施設・景勝地となると、蒜山が圧倒的な知名度で、新見だとなかなか難しいなというところがありました。我々は社員が3、4人ぐらいの小さな会社なので、できることにも限りがありますし、資金的にも限りがあるので、どうするかというところでいろいろもがいてやってきたのですが、社会的な背景として人口減少とかそういったことも明らかですので、これからどんどん人がたくさんやって来るということは絶対はないので、それを期待しても仕方ないというところがありました。現在、我々がどう動いているのかというと、大佐地区は特に観光施設とか大きなものがないですし、スーパーも近くに1軒しかない、駅は姫新線が1時間に1本という状況ですので、大佐山オートキャンプ場とか源流公園や風の湯温泉とかありますけれども、そこに来ない理由がないと来ていただけないと思うんです。どうすれば皆さん来てくれるのかといういろいろ考えてやっていたのですが、最終的にはちょっと見えてきたのは人のつながりなのかなと感じはじめてます。具体的にはスタッフとお客さんとの関係性です。とても地味な活動になってくるんですけど「いらっしやいませ」「こんにちは」と笑顔で対応するとか「いつもありがとうございます」と一言添えるとか、そういったことを地道に続けていけば、必然的に、時間はかかりますが、リピートしてくださる方がじわじわ増えて来ていて、そういうのが今後大事になってくるのかなと思ったりしています。ゴールデンウィークやお盆はお客さんたくさん来ていた

だけなんですけど、それは日本全国同じ状況だと思いますので、それ以外の期間、オフシーズンとか閑散期にいかに来ていただけるかということになると、やはり人、あのスタッフさんに会いたいとか、ちょっとおしゃべりしに行きたいとかそういった理由がなければなかなか来てもらえないのかなと思ったりしています。そういった地道にここ数年取り組んでいるんですけど、お客さんの中には、キャンプ場ではありますけど、年間で27泊位しているお客さんも現れてきています。先日、スタッフにチョコレートが送られてきて、送られてきたのは保育園の女の子なんですけど、スタッフにあげてくださいと宅急便で届きました。すごく地味な取り組みではありますが、そういったところしか今後やっていく方法はないのかなと思ったりしていますが、やっているスタッフもうれしいですし、仕事に対するモチベーションも上がってきますし、観光ビジネス、全てにおいて通ずるところがあるかもしれないんですけど、スタッフも仕事が楽しくなってきたりしますし、地元の方との関係性も良くなってくるのかなと思います。私共小さな会社なのですが、多少なりとも参考にさせていただければと思います。

#### (事務局)

前回もちょっと話になったんですけど、草間台の事業をしている時に、講師として来ていただいて、いろんな体験メニューのノウハウなどを伺って、大勢呼べば良いだけじゃない、先ほど山田駅長も言われましたけど、やはりおもてなしの心というのがリピート客につながるのかなと思います。とても参考になりましたので、それぞれの全体的な取り組みも考えていかななくてはいけないと思いました。

#### (委員)

かつて大佐山のハンググライダー基地があって、日本でも屈指の条件が良いということで、小坂部川があって上昇気流が生まれてというキャッチフレーズで人気を博していたと思いますが、最近あまりその声も聞かなくなりました。現状はどういうふうになっているか教えてください。

#### (委員)

スカイスポーツとしてハンググライダーとパラグライダーと2つあったんですけど、ハンググライダーについてはほとんど利用がない状況でして、年に1回ゴールデンウィークの時に愛好家の方が10名ぐらい来られる状況です。パラグライダーの方も最盛期に比べるとずいぶん減ってしましまして、今は熱心なお客さんが30人いるかいないかぐらいでしょうか。事業としては成り立たなくなっているのので、元お客さんだった方をお願いして、個人事業として細々と継続しているような状況です。空を飛ぶというのでとても魅力的なスポーツではあるのですが、費用的に、始めようとするとも80万円とか100万円かかるスポーツですし、あと風次第ということもあって、来ても飛べないということもしょっちゅうですので、最近の方なかなかそこまで我慢して空を飛ぶという情熱がかなりいりますので、そういったところがそぐわなくなっているのかなという印象です。

(会長)

次に南東エリアの説明をお願いします。

(事務局)

南東エリアについて説明します。略（資料を読み上げて説明）

(会長)

南東エリアの委員からご意見をお願いします。

(委員)

県道50号、県道78号も大分改良されて大きなバスも入って来るようになっていきます。満奇洞ですが、夏は放っておいても人が来て混雑するという状況です。12月から2月の閑散期につきましては、少し上級者に未開発部分の探検等を考えてみたらどうかと思います。夢を申しますと、夏は非常に混雑するので、井倉洞のような周遊のコースが考えられないかということ、今後、頭に置いていただけたら、今特にコロナの関係で三蜜の回避が難しいというところもありますので、ゆくゆくのこととも考えて検討してもらえないかと思います。草間の間欠冷泉については、行く道もないという状況なので簡単な遊歩道を整備してもらってもいいのではなからうかと思います。大原観光果樹園は、大根、蕎麦の販売、モモ、リンゴ、ナシの収穫体験がありますが、大根やトウモロコシとかも収穫体験等でお客さんを増やすと同時に農業収入の増加につながる努力をしてみてもらったらいかがかと思います。

(事務局)

今、草間台地域でいろいろ誘客の研究をしているので、皆様のご意見を伺いながら、地域全体で人が入って来るような取組と一緒に研究していきたいと思っていますし、農作物の利用についても、いいものが採れるのでいろいろ研究していきたいと思っています。満奇洞に入るときに夏場に100円市場が開かれています、昼前には売り切れるような状況なので、そういったニーズは本当に高いと思っていますので、そういうところで農業との連携も研究していきたいと思っています。

(委員)

草間の蕎麦ですが、出雲そば、横田とか坂根ですが、蕎麦めぐりが人気で、去年の秋、私も何回も挑戦したのですが、2時間待ち3時間待ちで食べれない。おとしも食べれなかったんですが、本当に新そばの時期は、どこを回ってもお客さんだらけで食べれません。田舎屋の蕎麦もおいしいですし、そこに力を入れていくというのも大変なんでしょうけど、ぜひ、草間の蕎麦を、蕎麦めぐりではないですけど、やはり、もっとその部分を発信していただけたら、お客さんを呼ぶ一つの要素になるかなと思っています。

(事務局)

蕎麦はとっても人気で、県北の方が県南に比べても蕎麦どころということで、行

列ができていたり、午前中で売れ切れてお店じまいですよというところもあります。草間も以前は2軒蕎麦屋があってその時は相乗効果がありましたが、今は1軒になってやはりライバルがいるということはとてもいい関係になったりしてました。地元でも継続して営業できないかということで、後継者の育成なども研究されているので、蕎麦は草間で採れたものを引いて作っています。蕎麦畑も継続する活動をされていますので、引き続き地元と話をしながら活用を考えて行きたいと思います。

(委員)

備中白小豆というものがあります。お茶の世界でお茶している人たちからは、とても貴重なものだと言われます。新見地区には昔からあって県も推奨しています。これをうまく使えば、使える商品になっていきますので、江戸時代の古い書物にも出てきますので、大事にしていけばいいかなと思います。

(事務局)

備中白小豆は、新しい品種も作られて生産されていますが、今まで引っ張って行ってくださった人が亡くなって、世代交代も必要なのかということになっていますので、どうやって行けばいいか分かりませんが、途絶えないようにいろいろとみんな考えて行ければと思います。

(会長)

次に市全域の今後展開の説明をお願いします。

(事務局)

市全域について説明します。略(資料を読み上げて説明)

観光事業審議会のイメージ(案)としましては、全体会に現在の審議会委員の皆さまに参加していただいて、各6つのエリア(部会)に分かれて、赤字のところですが、それぞれ審議会委員の皆さんに参加いただきながら、その他主な観光施設などに声をして、賛同が得られたところの皆さんと一緒にその地域の観光振興について話し合いをしたいと思っています。

(委員)

組織案などの説明がありましたが、そういった形で大丈夫ですか。正直、危機感が足りないのではないかと思います。個人的な意見としては、委員の皆さまからエリアごとにこういったことをすればいいのではないかなどのご意見がありましたが、それを資料に示した部会でもう一回するというのは、内容的にはどういうことをするのか、もう一回掘り起こしをしたり、組み立てをすることですか。事務局からの説明の中で、例えば、他地域との連携を研究してみたいとありますが、どこにさせるのですか。商工観光課でやるのですか。そういう研究をする組織が必要なのではないかと思います。組織を肥大化することはかえってよくないと思いますが、組織を作るのであればその組織に何をさせるのか。指定管理者や自分でされている観光事業者もPRをされていますが、そのPRの仕方がよくないのであれば、どういうふうにするとか、アクションプランの中に掲げられています。(この協議会が)

そういうことを実現するための組織であるのかどうかということを疑問に思いました。そういったことをするのであれば、最終的には、大きな旅行業者がプランを作らないのであれば、自分たちで作って売り込む、プラットフォームは一緒だと思います。最終的にはそのプラットフォームの設立までを目指した活動を研究していただきたいと思います。そういった具体的に研究できる組織がこの組織なのかということをもう一度研究していただきたい。確かに部会の人には地元の人ですからプランや資源が掘り起こせると思います。今度はそれを結び付けてどうするかというのを全体会で協議させるというのは、年1回の会議で決めましょうということにはならないと思うので、それを統合して新見市の観光を作って売り込みましょう、情報発信しましょう、という実務を行う組織が必要ではないかと思います。観光協会であるというのは今の体制では無理な話で、(総合計画に)観光協会の体制強化というのがありますが、それ自体も行政と観光協会と連携して、資金の面であるとか人材の面であるとか、もう一回見直していただかないと本当の新見の観光の発展というのが難しいのかなと思います。組織のあり方がこれでいいのかというのが疑問だったので意見を言いました。

(事務局長)

我々が考えたのは、実際にエリア内の方が一緒に話をしたことがあるのかどうかという辺りも少し疑問がありまして、近くにいるのに(観光振興の)話をしたことがないとか、連携していなかったりということを改めて、話をする機会をつくる必要があるかということを考えて提案をさせていただきました。まずはそこから始めないと、次のステップに駆け上がっていけないのではないかと考えました。今回こういう進め方の形でということをご理解いただいて、引き続き観光ということを考える中で、3月に答申をいただいたらその方向でいいということで終わりではないと思います。やはり状況は変化しますし、いろいろなことが起こります。その時代に合わせたことを考えて行かないといけないという中で、今までであるようではなかったような組織だと思うので、ゾーンとして提案させていただいた。そこで、まずは、しっかり話し合いをしていただく。その上で、そこで出てきた課題についてどうしたらいいか考えることは地元の方でやっていただかないといけないことなので、そういうところでしっかりご意見をいただいて、その報告を全体会でしていただいて、一つの方向性を持って行って、市は改めて観光戦略でありますとか、どこにどういうふうに売ったらいいとか、どういうところにアプローチして行こうとかということをもた皆さんにご提案させていただいたりということになっていけばいいのかなという形でこの組織というものを考えたものです。山本委員のご意見は、どこが音頭を取ってすればいいのかというようなことで、我々を心配してくださってのものだと受け止めています。まずは、エリアの人たちがしっかり話し合う場を作って行きたいというような思いで、この提案をさせていただいたものです。

(委員)

確認ですが、そうしますと、今後の展開イメージというのは来年度1年かけて部会の会議で結論を出して、再来年度から具体的な取組に入っていくというスパンで

考えているのですか。正直な話アクションプランのできることは少しでも早くやったほうがいいのではないかとということで、それが1、2年止まっていたので、できることから進めて行こうと思えば、そういったことにも対応できるような組織編成が必要なかなと思って発言させていただきました。前提でも言わせてもらいましたが、地域の方を巻き込んでしないといけないのは当たり前前で、その中で、来年度は、もう一回、本当に取り組むことの具体の整理を行うという会議、組織になるのですね。再来年度からこれに基づいた具体のアクションプランに従った22のアクションに対応していくと考えているということですね。スケジュールを説明していただければ、意見も変わってくるので、どうなんでしょうか。

(事務局)

資料3に観光アクションプランの具体的なアクションの提案ということで、今、市が考えていたり、本年度、来年度も予算計上して取り組んだりしている状況があります。このまま放っておくということではないと考えていただけたらいいと思うので、このアクションプランについて、市はこういうような進め方をしているので、こういうところを見直した方がいいのではないかとか、これができたのが、コロナ前なので、その辺も見直しが必要ではないかと思っています。そこまでたどり着けるかどうか分かりませんが、市としてはこういうようなアクションをそれぞれ考えながら、それぞれのエリアで皆さんと一緒に他人事ではなく、みんなで前に進んでいきたいという思いを持っているということです。また、この中で、観光づくり組織であるDMOであったり、今、草間台でもジオパークの構想などがあって、そういうようなことを推進する会議なども必要ではないかという話が出ています。ですから、これ(観光事業協議会)と並行しながらいろいろと研究していきたいと思っています。これ(同上)をしてからでない次のアクションに行かないということではないと考えています。

(会長)

審議会の予定時間も少なくなってきたので、事務局から資料3の説明をお願いします。

(事務局)

資料3、縦列の4つの基本戦略と10の戦略プロジェクト、22のアクションについては、前回(平成29年度)の審議会です承していただいたと考えております。その後、具体的なアクションについて、案をいろいろ考えながら作っている最中でしたが、最終的に(前回審議会委員の)皆さんに照会して了承に至っていない状況にあります。現在、市がどのようなことを具体的なアクションとして取り組んでいるかということに記載しているもので、あくまで案として受けとめていただければいいです。例えば(10の戦略プロジェクトの1)「情報発信の体制構築」につきましては、一元的な観光情報の発信をしたいということで、来年度当初予算に、観光協会と市の観光のホームページを統合して一緒に情報発信して行こうという考えを持っています。県内でも別々に観光のホームページを運用している自治体は2つほどしかなくて、やはりどちらを見ればいいのかということになってはいけないので、

そういうことを計画しています。また、(戦略プロジェクトの) 4 (地域に眠る資源の掘り起こしと磨き上げ) の中の「地域資源お宝発見とデータベース化」については、教育委員会がいろいろデータベース化を進めて行くように伺っていて、その辺ともリンクをしながら考えていきたいと思っています。次(戦略プロジェクト)の5では「地域資源を活かした体験プログラムづくり」であったら、右の方の農業体験ツーリズムであったり、産業体験ツーリズムについて研究していきたいと考えています。また、(戦略プロジェクト) 6 (持続可能な受け入れ体制づくり) では、現在、おかやまディステーションキャンペーンに向けて、観光協会と連携しながらプレの企画を練っているところです。周遊型観光ツアーや予約型タクシーの事業を継続しているので活用しながら取組を行っているところです。今回は観光需要を活発化させようということで、観光バスの運行につきましても新しい補助事業をつくって、今日の新聞に市長が発表した事案が掲載されていたと思います。時間がないので端折りましたが、いろいろと市として取組をしているということを紹介しています。

(会長)

次回3回の審議会では、今後の展開と答申案の協議ということにしてありますので、(今回皆さんが) 言われたことを具体化しながら次回の審議会に進めさせていただければと思います。皆さまからご意見をいただきましたが、このような進め方でいいでしょうか。了承いただけたら挙手をお願いします。(挙手多数) ちょっと難しいところもあるようですが、次回もう1回、内容の方を詰めさせていただきたいと思います。

それでは、事務局にお返しします。

(事務局長)

ありがとうございました。なかなか分かりにくいことになってしまっていたいへん申し訳ないですけれども、先ほどのことについて、もう少しだけ説明させてください。先ほど西山が説明しましたとおり、我々の提案としたら2024年度に主要20施設に挙げているところで、今、59万5千人のところを70万人という目標設定をさせていただくことをここで定めさせていただきたいということがお願いの一つです。それに向けてスケジュールのお話をされたと思いますが、1年間かけてこういう仕組みでやって行こうと思っていますが、観光で訪れる方々は、今年からとか来年からとかということではなくて、今年もやらなくてはいけないことはやらなくてはいけなくて、そういうことは今やるべきことをしっかりやって行こうと思っています。コロナの状況ですが、できることをしっかり連携しながらやっていきます。ただ、もう少し整理をしながら皆さんと連携して、より良くもう少し観光のお客さまを、交流人口を増やしていきたいということのために、皆さんに話し合いをしていただいているということ、観光は止まるわけではないので、この仕組みで話し合いながら2024年度で今よりもお客さまが増えていくようにということを考えて行きましようという話ですので、そういうふうに理解していただければありがたいと思っています。なかなかイメージがつかめないかもしれませんが、我々とすれば観光は今すぐに終わるわけではないので、常に話し合いをしながら問題点を出

しながら、さらに観光客の増加を目指して頑張っていきたいと思っています。

(委員)

委員にはOBとして暖かいご心配であると思います。非常に苦勞して資料を作っておられるだろうと思います。今までの市役所のイメージの中で、一生懸命もがきながら作って行く、なんとかしようということを感じます。たいへん嬉しく思っています。これがやはりベースだと思いますので、結果的に委員さんの心配みたいなことがないか分かりませんが、みんなで考えて行くということがとっても大事だと思うんです。このことだけは忘れずに今後とも続けていただきたいと思っていますので、応援メッセージを送ります。

(事務局長)

おっしゃっていただいたように皆さんと一緒に交流人口を増やしていきたいという思いでありますので、いろいろなことでそういうところはまずいのではないかとあるかもしれませんが、いろいろな意見をいただきながら、改善しながら進めて行きたいと思っています。

### 3 その他

(事務局長)

それでは「その他」ということで、皆さんから何かご意見、ご発言があれば、お願いします。

(委員)

3点あります。1点目が、事務局長がおっしゃったように観光は止まらないということです。この諮問に関してはコロナの収束を見据えての話をされていますが、一方で委員が言われたようにコロナがすぐ収まるわけではないので、直近来年度、再来年度で、コロナ禍での観光というのどこかで考えながらお話をしておかれるべきなのかと思いました。2点目は、施設の活用ということで北エリアのところで発言をし損ねたので参考程度に聞いてください。国土交通省が観光白書を出しています。その中でスキー場の夏季利用に関して白馬村の事例が出ていますので参考にされて研究をされたらいいと思います。3点目は、具体的なアクションということで22個、現在取り組んでいるものも含めて説明がありましたが、その中でデータの収集や分析、というのは市内外の観光者へ向けアンケート調査を実施されていくと思います。その中でぜひ折り込んでいただきたいのが、各観光施設の入込客の月別のピークはどこにあるのかということと、利用者さんの世代のデータ、この2つに関しては、すべての場所で取っておかれるとよいと思います。それこそ今後のシャワー効果のことを言われましたが、どことどこをどう連携させるのか、いつの時点で連携させるのか、というところが結果として視覚化できて考えていきやすいかなと思います。もし、これを含めて今実際に動いているのであればそれぞれのデータ、アンケート調査というものを精査する中でこれらを反映できると有効に活用できる

かなと思います。

(事務局長)

ありがとうございます。今後の参考にさせていただきたいと思います。

#### 4 閉会

(事務局長)

時間もまいりましたので閉会に移りたいと思います。

(副会長あいさつ)

長い間のご議論お疲れさまでした。今日、すごくいいご意見をたくさん聞かせていただいて、その中でキーワードがたくさんあると思って聞いたところです。コロナ禍で来年度、再来年度もまだまだコロナのことを気にしながらではという中であろうと思いますが、県の観光の中で考えているのが、コロナが収束したとしても感染症というものについて、世界の人たちの気持ちというものはたぶん変わらないという中で、安全安心な観光地づくりをしていくというのが、一つキーワードになるのかなと思っています。人ごみを避けないといけないというご発言もありましたが、こういうことは続いて行くのかなというところで、いろいろと観光地のことを考えて行く中で、心の片隅にはおいていただきたいなと思います。それから、エリアごとの連携の話がたくさん出てきました。今までの観光といえば、家を出発して、ここの観光地を回って、それからここの観光地を回って、ここに泊まって、次にここの観光地を回って、というような観光の形だったと思うのですが、コロナ禍で皆さんストレスを抱え、観光に癒しを求めて行こうというものが多くなってきて、滞在型の観光というものがこれから求められていくのではないかということと言えますと、いろいろとお話を聞いた中で、新見市内にも温泉など宿泊施設があり、そういうところを拠点にして、滞在型で、ここを拠点にして、ここ、ここ、というようになってくる回るのではなくて、そこからいろいろなところに回って行くような滞在型の観光というのが今後求められていくということで、県もいろいろと考えています。そういった中で、先ほどデータ分析の話がされましたが、こういったところにターゲットを置いてそういった連携をしていくのか、こういった人たちに来ていただくのか、お客さんにたくさん来ていただくと思うと、おじいちゃん、おばあちゃん、子ども、みんなということになるかと思うんですが、今はマーケティングということが言われており、この観光地にはこういった人に訴求すれば一番来ていただいて、一番刺さるのかということところが大事なところだと思うので、いろいろ連携を考えて行く中で、ターゲットというところをしっかりと考えて連携も考えていただければと思っています。それともう一つ、人口減少社会になるのでという話が出ていたと思いますが、そういう中で、一定の数の人に来ていただくということで、入込を増やして行こうということと言えますと、リピーターの確保ということが大事になってくると思います。人と人との心のつながりが大切だという話が出ていたと思うのですが、そういった人と人との心のつながりですとか、いろいろとお話を聞いていると新見市内にいろいろとストーリーを持った素材が非常

に多いなということを感じました。そういったストーリーを語っていくことで、またこの季節に来たいです、この季節にも来たいです、というような話がつながるような素材があるのではないかということでお聞きしました。そういったようなことも視点において考えていただけたらいいのではないかと思います。最後にもう一点、皆さんにお伝えしたいことがあります。昨日、山陽新聞の地域創生講座がありまして、瀬戸内芸術祭のプロデューサーをされている北川フラムさんの講演があり、その中で、パネルディスカッションに県知事、津山市長、JR西日本岡山支社長、高梁市の国際交流員でフランス人の女性が出られていてお話をされました。北川フラムさんの言葉の中で印象に残った言葉がありました。観光というのは光を観ると書いて観光と言いますが、本当の観光は幸せを感じるのが観光で、この幸せを感じるというのは、誰が幸せを感じるかということ、地域の人が幸せを感じる観光、なぜ地域の人が幸せを感じるかということ、観光客の人がいらっしゃるということは、そこに見たいもの、体験したいもの、感じたいもの、があるということでたくさんの方が訪れる。そういうことによってやはり地域の人はその地域を誇りに思えるというようなことが地域の人が幸せを感じるができるということではないかというようなことを語られていて、すごく印象に残りました。そういう中でいうと、各エリアでいろいろとどういった連携ができるか、どういうふうに地域課題を解決していくか、と考える行くことは、まさに皆さんで幸せを感じていただく観光に向かってのスタートなのかなと思いますので、引き続き皆さんで力を合わせて頑張っていけたらと思っていますのでよろしくお願いします。

(事務局長)

以上を持ちまして本日の審議会を終了します。次回は答申の案を作らせていただいて、それをご審議いただくようになるかと思えます。長時間にわたりありがとうございました。